

京都 | 伏見

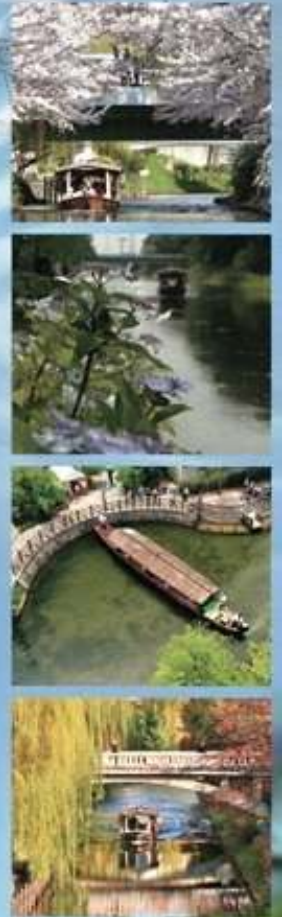
kyoto-fushimi

図1

# 十石舟・ 三十石船の旅

京都には  
港町がある。

伏見の移ろう四季を  
歴史ある十石舟・三十石船の  
情緒溢れる船旅で。



# 伏見周辺の水運～琵琶湖疎水～高瀬川

瀬戸内海からの大きな船は伏見港で荷を積みかえた、京都中心部へは船底の浅い高瀬舟で高瀬川を上った



☒

琵琶湖疎水はインクラインを経て蹴上から京阪電車線路に沿って南下して伏見港に至る

東高瀬川は北上して京都駅東側を通って先斗町に至る

鴨川が氾濫し、安定した水運航路に向かなかつたので、戦国時代から高瀬川経由で物資を運んでおり、伏見は京都・琵琶湖・大阪を結ぶ交通の要所だった。だから商人や旅人の宿が沢山出来ていた。明治になって、琵琶湖疎水が出来て更に栄えたと思われる。龍馬に限らず幕末には情報でも重要な場所になった事が伺われる。



料亭・魚三樓の入口脇の格子には、鳥羽伏見の戦いによる弾痕が見られる **A**



伏見の名水・白菊水。昼間は水を汲む人が列を作っている **B**



宇治川派流沿いに立つ龍馬とお龍 愛の旅路像。十石舟からも見られる **C**



街には、「竜馬通り」やビルのシャッターに龍馬とお龍や、寺田屋事件の絵が描かれている。

高瀬舟で輸送した物資は、伏見からは酒の他に薪やコメ野菜など、京都からは織物や金属製品などのようだ。







